

おもしろい本 みつけた!

《中学生・高校生》



1年の間に図書館に入った本を中心に、幅広くおもしろい本を紹介します。

★ホームページにもっています。
気になる本をみつけたら、さっそく探してみよう!



茨木市立図書館
おすすめ本のページ



K360
(難民)

2019年11月

『故郷の味は海をこえて 「難民」として日本に生きる』

安田 菜津紀 作・写真

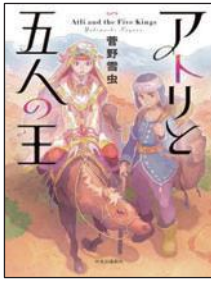
(ポプラ社)

「難民」という言葉は、テレビなどでよく聞くことはありますが、詳しいことを知っていますか。

なぜ、国を離れなくてはならなかったのか。どうして日本にやってきたのか。「難民」と呼ばれる人たちのたどってきた道のりを、思い出のある故郷の料理とともに紹介しています。

世界で、難民はどのように受け入れられているのか。日本の場合はどうなのか。「^{入管}入管」とは?など、わかりやすく説明されています。日本に来てからのことなど、厳しい現実も書かれています。





ニースガ
(日本の小説)

2019年6月

『アトリと五人の王』

菅野 雪虫 作

(中央公論新社)

王宮で継母に虐げられて育った姫アトリが、5つの国の5人の王達との結婚や別れを経験し、未来を切り開いていく物語です。シンデレラ?と思うかもしれませんが、状況は少し違います。アトリは最初に嫁いだ王のもとで、知識と常識、愛情を惜しみなく与えられますが、その幸せは長く続きませんでした。

各章は、それぞれの王を表すタイトルになっていて、次はどんな王だろうと、読み始めると止まりません。

多くの苦難や喜び、愛情や友情に彩られた数奇な人生をたどるうちに、生きるうえで大切なことが伝わってきます。



K510
(井戸)

2019年10月

『わきだせ！いのちの水』

日本伝統の上総掘り井戸をアフリカに』

たけたに ちほみ 作

(フレーベル館)

日本では、あって当たり前きれいな水ですが、世界には大変な苦労をしても汚れた水しか手に入らない国がたくさんあります。この本の主人公の大野篤志さんは、大けがをきっかけに「人の役に立つことがしたい」と思うようになりました。そんな時、アフリカで安全な水が飲めるよう「上総掘り」という日本の伝統技術を使い井戸を掘るボランティア活動を知ります。研修に参加し、技術を身につけた大野さんはアフリカに向かいますが、そこで直面したのは日本の伝統だけでは通用しない現実でした。

様々な困難も「困っている人を助ける」信念で乗り越える、大野さんの情熱が伝わってくる一冊です。



ニークボ
(日本の小説)

2019年9月

『きつねの橋』

久保田 香里 作

(偕成社)

佐竹 美保 絵

平安京を舞台に、齋院と呼ばれる姫を守る白狐の葉月と、後に、源頼光の四天王の一人となる平貞道との物語です。貞道は15歳で元服し、大人の仲間入りをしますが、田舎出身の五男坊が京で認められるには、手柄を立てるしかありません。血気盛んで情もある貞道は、自ら試練に飛び込み、友と助け合いながら、問題に正面から取り組みます。かつて平安時代に実在した武将の少年時代は、もしかしたらこんな感じだったかもしれないと、晴れやかな気持ちになれる小説です。



Fーカノ
(日本の小説)

2019年6月

『いつかの岸辺に跳ねていく』

加納 朋子 作

(幻冬舎)

おきななしみ 幼馴染の、護と徹子。前半は護、後半は徹子の視点で語られています。同じように学校生活を過ごしていても、視点や個性の違いで、見える世界は全く違うものでした。

大切な人を守りたいという思いで、自分ができなことを、精一杯の思いやりで積み重ねていくと、たとえ今は報われなくても、振り返れば全てが繋がっていて救いとなります。

記憶の断片が、まるで水面を跳ねて遠くまで届く石のように、輝く瞬間になる、心に温かく響く小説です。



402-19
(科学史)

2019年2月

『科学史ひらめき図鑑 世界を変えた科学者70人のブレイクスルー』

スペースタイム 作

(ナツメ社)

科学者や技術者70人の歴史的な発明や発見などにつながった「ひらめき」を紹介した本です。

「視点を変えろ」「人の話を聞け」など5つの章に分かれて、人物ごとに3ページずつイラスト入りで解説されています。

「電子レンジの仕組みの発明」や「雷の正体の発見」など、身近なものについても書かれていて、どんな「ひらめき」がそこにあり、何がきっかけで発明・発見されたのかを知ることができます。

科学者や技術者たちの思考の転換は、これからのあなたの「ひらめき」のヒントになるかもしれません。



Fーアオ
(日本の小説)

2019年7月

『鎌倉うずまき案内所』

青山 美智子 作

(宝島社)

古ぼけた時計屋の螺旋階段を降りた先にあるのは「鎌倉うずまき案内所」。ここは仕事や結婚、人間関係などに悩み、自分の人生という道にはぐれかけている人々がたどり着ける場所です。悩める人々が迷い込むと、双子のおじいさんとアンモナイトが待っていました。悩みを解決するヒントと不思議なキャンディによって、訪れた人々は大切なものに気づいていきます。

平成の始まりから終わりまでの30年を舞台に、6編からなる連作短編集です。



779-19
(落語)
2019年3月

『柳家喬太郎のヨーロッパ落語道中記』

柳家 喬太郎 作 (フィルムアート社)

落語家仲間からヨーロッパ4か国公演を依頼された柳家喬太郎さん。日本語が通じないからと最初は断りますが、公演先に以前から行きたかったアイスランドが含まれており、行くことにします。日本独自の文化「落語」の良さを引き出すために、完全字幕落語を現地の大学生に披露し、交流したり、旅の道中を落語に例えて、旅を楽しみます。「落語」を「drop story」と英語で表した喬太郎さんの道中は、どんな「オチ」が待っているのでしょうか？



F-オオ
(日本の小説)
2019年10月

『シャガクに訊け!』

大石 大作 (光文社)

「シャガク」と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか。学者でも、写楽でもありません。社会学です。社会学とは、大学で学ぶ学問のうちの1つで、内容は結構何でもあります。

「集団心理」の意味は? 「ステレオタイプ」とは? これらは社会学の中でよく使われる言葉です。

大学で起きる色々な事件を、主人公が社会学の講師と2人で解決しながら、言葉の意味を分らせてくれる内容になっています。自信がないあなたも、ほめてくれる人の言葉には耳を貸そうと思えるようになる本です。

★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎627-4129	畑田町1番51号
中条図書館	☎622-2476	東中条町2番13号
水尾図書館	☎637-4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎620-1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎620-1056	松ヶ本町8番30号 イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館

発行日：令和2年(2020年)10月

*本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。



この印刷物は、10,000部作成し1部あたりの単価は7.85円です。